

通し番号	4717
------	------

分類番号	26-34-12-06
------	-------------

ブドウ‘シャインマスカット’の果粒肥大促進のための摘心技術
[要約] ブドウ‘シャインマスカット’の長梢剪定による露地栽培において、開花始時に房先7～8節残して新梢先端を摘心、その後伸びてきた副梢は摘粒時に着房節から基の節では5～6節残して摘心、房先の副梢は2節残して摘心及び、7月以降の新梢管理として二次副梢(孫枝)は適宜もとから摘心すると果粒肥大が促進される。
神奈川県農業技術センター・生産技術部・果樹花き研究課 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ブドウ‘シャインマスカット’は、県内ブドウ産地にも導入が進んでおり、皮ごと食べられる黄緑色系品種として直売での人気も高い。しかし、全国的にも栽培面積が増えていることなどから直売での贈答用としての商品価値向上を目的に、県内において一般的な長梢剪定による露地栽培における果粒肥大促進のための新梢管理技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 開花始時に結果枝の新梢先端を房先7～8節残して摘心する。その後伸びてきた副梢は、摘粒時に着房節から基の節では5～6節残して摘心、房先の副梢は2節残して摘心する。また7月以降の新梢管理は二次副梢(孫枝)が発生したら適宜もとから摘心する(表1、図1)。このような摘心処理を中心とした新梢管理を行なうことにより、摘心を行わない慣行の新梢管理法に比べ、1割程度果粒が大きくなり、果粒肥大を促進するのに有効である(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 果実糖度は慣行の新梢管理法に比べ、やや低い傾向となるので早もぎに注意する。
- 2 本試験での植物生長調節剤の使用は、1回目処理として満開時にGA25ppm+CPPU3ppmを花房浸漬し、2回目処理として満開13～14日後にGA25ppmを果房浸漬とした。

[具体的データ]

表1 比較した新梢管理法

新梢管理法	新梢の摘心 (開花始め時)	副梢の処理 摘粒時(6月中旬～下旬)	7月以降の 新梢管理
摘心管理区	先端約1cmを摘む(房先7～8節残す)	房基5～6節、房先2節残して摘心する	二次副梢(孫枝)が出たら、適宜もとから摘心する
慣行管理区	摘まない	無剪定	結果枝先端を房先10節で切り、副梢は房基2節、房先1節残して摘心

※このほかの新梢管理は各区共通に、展葉2～3枚時に不定芽、副芽を欠き、その後展葉6～6.5枚時に極端に強い芽、弱い芽を欠いて新梢を揃えた。また展葉7～8枚時に新梢誘引を行なった。

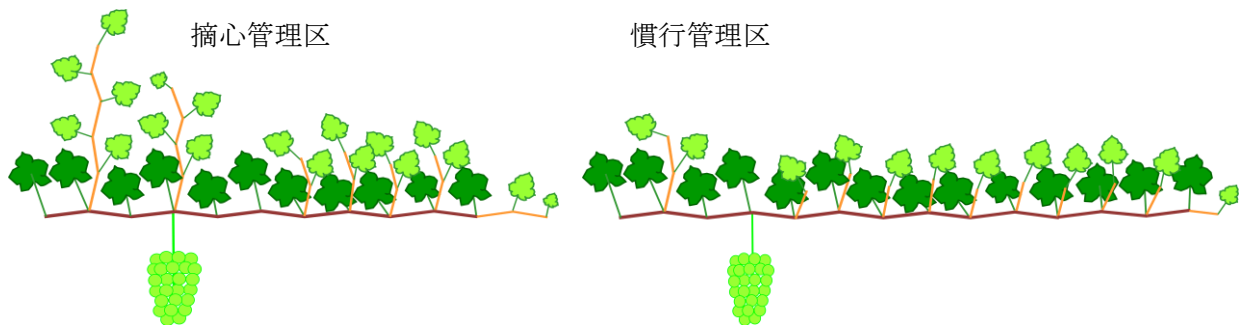


図1 摘心管理した結果枝のイメージ図

表2 収穫時の果実品質

年度	試験区	着房数 (房/m ²)	果房重 (g)	果房長 (mm)	チャート ^y	粒数		軸重 (g)	主軸長 (mm)	10粒重 (g)	有核果数 (10粒中)	種子数		Brix (%)	酒石酸 (g/100ml)
						全体	未熟					(10粒中)	(しいな)		
2013年	摘心管理区	2.1	553.5	175	3.4	45.0	0.9	9.8	129.6	130.1	0	0	0	19.5	0.34
	慣行管理区	2.0	524.2	169	3.6	45.3	2.3	9.9	129.9	118.5	0	0	0	20.2	0.33
	有意性 ^z	—	ns	ns	ns	ns	*	ns	ns	*				*	ns
2014年	摘心管理区	2.3	620.4	173	3.4	40.2	0.2	13.3	108.9	158.3	0	0	0	17.1	0.38
	慣行管理区	2.3	520.1	167	3.5	38.6	0.5	9.8	103.8	139.6	0	0	0	18.3	0.34
	有意性 ^z	—	**	ns	ns	ns	ns	**	ns	**				**	**

z:有意性はt検定による(**:1%、*:5%水準で有意差あり)

y:山梨県果試作成のシャインマスカット専用カラーチャートを使用

[資料名] 平成25～26年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] 直売向けブドウ新品種の安定生産技術の確立

(ア) 高品質新品種安定生産技術の確立

① 果粒肥大促進のための新梢管理法の検討

[研究期間] 平成25～26年度

[研究者担当名] 小泉 和明・柴田健一郎・曾根田友暁

[協力・分担関係]